

# なでしこ通信

第79号



「秋に戯れる」撮影者：長嶋正實顧問

就任のご挨拶  
医療安全管理室  
就任のご挨拶  
医療福祉・地域連携室のご案内  
糖尿病を予防するための食生活  
元気に退院しました／職下だより  
コロナ禍でのリモート結婚式／病院と式場をつなぐ  
贈呈式を最短で実現いたしました／退院向けた意決定薬について  
ここには、園芸部です／整形外科伊藤岳史先生退任  
院内周辺を綺麗に／新人紹介

## 愛知県済生会リハビリテーション病院の基本理念

済生会設立の精神である「恵まれない人々を助ける」を基にして、リハビリテーションを通して、保健・医療・福祉及び介護のサービスを総合的に提供します。

## 愛知県済生会リハビリテーション病院の基本方針

- 1 人間性を尊重した、心の通った、質の高いリハビリテーションを提供し、患者さんの自立への支援を行います。
- 2 生活相談や健康相談を通して、医療を受けることが困難な人々の健康づくりのお手伝いをします。
- 3 職員一人ひとりが自己研鑽に励み、知識と技術の向上に努めると共に、明るく働きやすい職場づくりに努めます。

## ～無料低額診療制度のご案内～

当院では病気やけがにより生計困難をきたす恐れがある方や経済的理由により必要な医療をうけることが困難な方に対して社会福祉法に基づいて無料低額診療制度を行っています。申請を希望される方は地域連携室までご相談ください。

「医療福祉・地域連携室」TEL052-571-5253（ダイヤルイン）

募集

あなたの作品を「なでしこ通信」の表紙にしませんか？詳細は当院総務課までお問い合わせ下さい。沢山ご応募お待ちしております！



## 就任のご挨拶

リハビリテーション科 第三部長  
伊代田 一人

令和3年8月に愛知県済生会リハビリテーション病院に赴任しました。昭和57年に大学を卒業し、豊橋市民病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、名古屋大学整形外科、名古屋第一赤十字病院、東京厚生年金病院、トヨタ記念病院などで整形外科医師として診療に携わってきました。専門分野としては関節外科、外傷分野で、手術としては主に股関節、膝関節の人工関節を行ってきました。最も典型的な急性期病院の整形外科勤務医といえます。とはいえるコロニーでは小児整形・障害児、名古屋大学では関節リウマチ、人工透析、血友病などを担当していましたため、どの勤務先でも障害者・児を診療する機会が多かった印象があります。また企業立病院に勤務していた時は産業医として作業に関連する運動器障害の診療を行い、障害者支援、復職支援なども担当させていただきました。

超高齢社会を迎えた日本では『健康日本21』の中で健康寿命の延伸、健康格差の是正を掲げ、『足腰に痛みのある高齢者の割合の減少』が盛り込まれ、また日本整形外科学会も『ロコモティブシンдром（運動器症候群）』を提唱しています。特に要介護の原因疾患として関節疾患が10.5%、転倒・骨折が10.8%を占めており、中でも『骨卒中』ともいわれる大腿骨近位部骨折の治療と予防の重要性が指摘されています。前勤務先の病院での大腿骨近位部骨折に対する手術は20年前は年間50～60件程度でしたが、2018年には200件に増加しています。しかし急性期病院では救急対応と手術、全身管理に追われ、その後のリハビリテーションや生活指導、環境整備は後方病院に任せることとなり、骨折連鎖の防止活動が十分にはできませんでした。

現在、最も関心があるのは骨粗鬆症と高齢者の骨脆弱性骨折の予防です。運動療法（骨量増加訓練、バランス訓練）と栄養の介入でどこまで骨折を減らせるか、がテーマです。回復期リハビリテーションは骨折治療の医療連携の中で重要な役割を担っています。大腿骨近位部骨折後の機能回復はもちろん重要ですが、運動療法、栄養指導、環境整備などのチーム医療によって受傷後の骨折の連鎖を減らすことができれば健康寿命の延伸に貢献できると考えています。

『骨』も健康寿命には大切な要素です。『健康な體（からだ）は豊かな骨から・・・』

# 医療安全管理室 就任のご挨拶



看護部 副看護部長 兼 医療安全管理室長  
水谷 律子

縁あって令和3年4月、愛知県最大の回復期リハビリテーション病院の医療安全管理室に勤務することになりました。これまで主に、循環器センターで心臓の手術や心臓カテーテル検査・治療を受ける患者さんの看護に携わってきました。直近勤務は急性期病院（594病床30診療科）で外来・集中治療部門の統括、病院全体の病床コントロールをしていました。またリスクマネージャーとして15年実務しました。

緊張いっぱいの着任初日、4階病棟のスタッフステーションで、車いすの患者さんと一緒に医師、介護福祉士が「～ぽっぽっぽ 鳩ぽっぽー♪～」と歌う姿を、今でも鮮明に記憶しています。なぜ「鳩ぽっぽ」だったのか不思議な光景でしたが、医師、コメディカルすべての職員が「患者さん一人ひとりに丁寧に寄り添う優しい病院」と確信した瞬間でもありました。

さて私が勤務する医療安全管理室は、患者さんに安全な医療を提供するために、病院全体の安全管理を担う部門です。医療安全管理室では医師、看護師、療法士、薬剤師、検査技師、放射線技師、管理栄養士、事務部門等が専門性を活かし意見を出し合いながら、医療の安全について検討する場を設けています。院内で起こった小さなできごとが、大きな事故につながらないよう、多職種でカンファレンスをします。

また、一つひとつのインシデント報告を大切にしています。レポートの半数を占める患者さんの転倒・転落は、各部署のリスクマネージャーと情報共有し、再発防止対策を立案します。さらに部署や職種を越え、それぞれの目線で意見交換し、患者さんの活動性をあげながら、リスクが少しでも減るよう、よりよい対策を検討します。さまざまな事例に対し「どうすればよかったです」「こうしたらいいかも」と、安全な環境を整えるために、日々病院内を巡回し、スタッフや患者さんの生の声を聞いたりもします。さらに医療を安全に行うためには、スタッフ全員で業務を統一化や標準化することも必要です。病院には、全てに手順を示すマニュアルがあります。マニュアルに沿ったルールは、一度決めればよいというものではなく「現状に即しているか」「本当に守られているか」「守られなかった理由は何か」個人を責めるのではなく、さまざまな視点で見直しをするのも、医療安全管理室の大切な役割です。

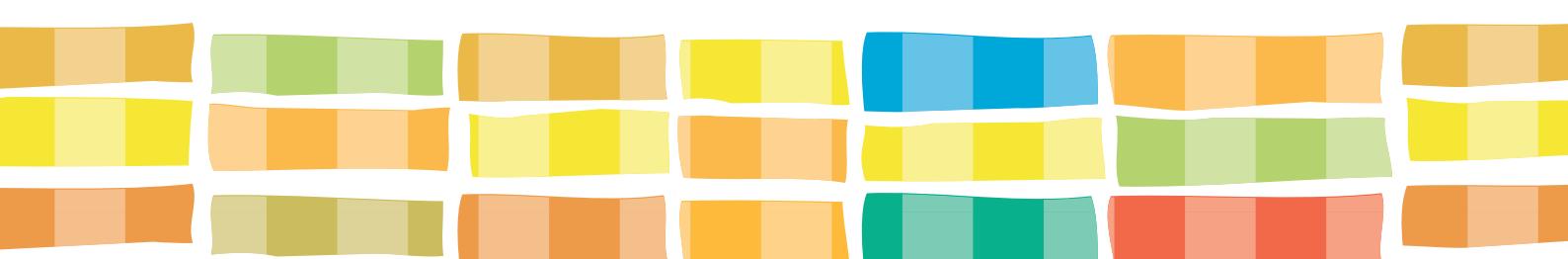
あの車いすの患者さんは、杖について退院されました。心がとても温かく感じた、あの日の歌声を忘れないで、急性期病院での経験を生かし、患者さんの笑顔に安全・安心が届けられる医療安全管理室を目指していけたらと思います。

♪ぽっぽっぽ 鳩ぽっぽ～みんなで仲善(なかよ)く～♪

患者さんの一日も早い回復を祈って



▲医療安全委員会の様子



## 医療福祉・地域連携室のご案内

医療福祉・地域連携室は医師 1 名、看護師 2 名、医療ソーシャルワーカー 8 名、事務 1 名で構成されています。当院は回復期リハビリテーション病院単科の病院であり、入院される患者さんの大半は急性期病院からの紹介です。スムーズな転院をしていただくため、治療や薬の状況、必要な看護や介護等を確認し、医師や病棟師長と共に受け入れの準備を行っています。治療経過や身体状況によっては医師や看護師が隨時、急性期病院と連携を図り適切な時期に入院いただけるように調整もしています。

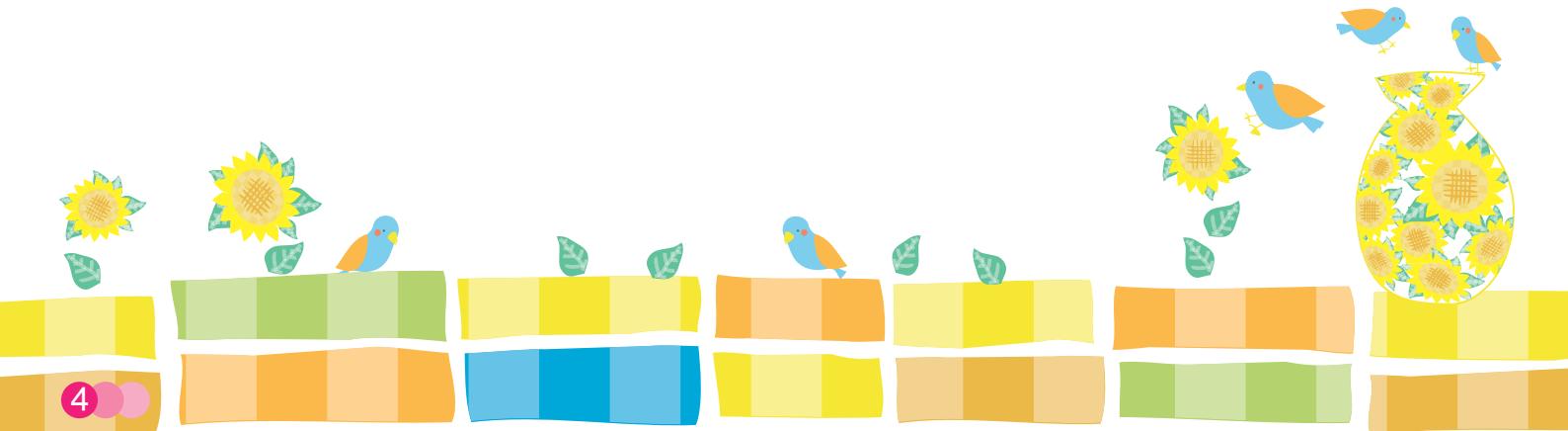
当院では入院されるすべての方に入退院支援看護師もしくは医療ソーシャルワーカーの担当がつきます。受け入れ日時が決まると患者さんやご家族と電話で、持ち物の案内や入院に際して不明な点等はないかお話を伺っております。入院日には直接お会いし、入院前の生活をどのように送っていたのか、どのような趣味や生きがい等があったのか、今後の生活のことや考えていることや不安に思うことはないかお話を伺っています。

リハビリなどの治療を受けても病気やけがの状況によっては、病前にできたことができなくなってしまう場合や、仕事や家事などに支障が出てくることもあります。そのような場合であっても、患者さんがどこでどのように生活をあくみたいかお話をしながら、その希望等を院内スタッフと共有しています。必要に応じてご家族やご友人等身の周りの方からの支援状況を確認し、介護保険制度や障害福祉サービス等の社会資源の活用ができるよう努めています。退院後、医療処置の継続が必要な場合、入退院支援看護師が在宅支援を行う方と共に働いて支援にあたることもあります。

最近では一人暮らしの方も多く、様々な事情で頼れる方がいないという方も増えています。入院生活に必要な衣類や日用品の準備、家賃・電気・ガス・新聞等の支払いや停止手続き等ができずに困る方もいます。患者さん自身で解決ができるように一緒に手続き方法を確認し、関係機関に連絡をとることもあります。ただし、病気やけがの影響で必要手続きが難しい方もみえます。その場合には、代理で手続きを行ったり、日用品を揃えるお手伝いをすることもあります。

このように医療福祉・地域連携室では、患者さんが入院する前から関りを持ち、退院した後の生活を見据えて支援を行っています。

医療福祉・地域連携室 MSW 中西 恵那





# 糖尿病を予防するための食生活

食生活などの生活習慣が原因で起こる病気の中でも特に有名なのが糖尿病です。糖尿病を発症する人の割合は年々増加傾向にあり、「糖尿病が強く疑われる人」は日本で約1000万人、40歳以上の成人においては約14%の人が糖尿病または予備軍と言われてあり、社会的に大きな問題となっています。糖尿病は血糖値が高い状態が持続する病気で、初期であればほとんど自覚症状がありません。しかし、そのまま適切な治療を行わなければ長期間放置されると、知らぬ間に目や手足、腎臓などに障害をきたし、最悪の場合は失明や足の壊死、腎不全に繋がる病気です。

糖尿病を予防するために重要なことは、高血糖状態を長時間持続させない食生活を心掛けることです。食事は、始めに食物繊維を多く含む“野菜類”、次にたんぱく質を多く含む“肉・魚・卵類”、最後に炭水化物を多く含む“米や小麦などの主食”の順に食べると良いでしょう。特に野菜に含まれる食物繊維は血糖値を上昇させる糖質の分解や吸収を遅らせる効果があるだけでなく、脂質の吸収を抑制する効果も期待できます。また、朝食、昼食、夕食を規則正しくとり、間食にも気を付けることが大切です。特に糖質を多く含んだお菓子や砂糖を多く含む飲み物は血糖を上昇させやすいため、できるだけ控えたほうが良いでしょう。逆に適度（食べ過ぎは不可）な果物を日頃から食べている人や、緑茶を飲む回数の多い人は糖尿病になりにくいと報告されています。しかし、食生活の質を良くしても食べる量が多ければカロリーが過剰となり肥満に繋がります。食事中はよく噛むことで満腹中枢が刺激されるので、少量でも満足感を得られます。食後はすぐ横にならず、家事や散歩をするなど軽く体を動かすことでカロリーを消費し、血糖値の急激な上昇を抑えることができます。上手く食べ物を選ぶとともに、腹八分目を意識していくことが重要です。

糖尿病は身近な病気ですが、食生活に気を付ければ十分予防することができます。自分の中で当たり前となっている食生活を振り返り、できることから実践することが大切です。ぜひ参考にしてみてください。

栄養科 管理栄養士 深尾 真未



# ～元気に退院しました～

入院患者 中村 峰子さん

お身体の調子はいかがですか？

階段から滑って大腿骨を骨折し、手術後リハビリ入院のために転院してきました。最初はお医者さんからも歩けないだろうと言われていましたが、今では自分で立って歩けるまでに回復しました。

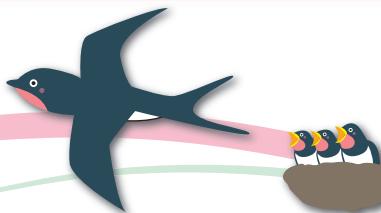
職員の対応はいかがでしたか？

とにかくスタッフの皆さんには優しくしていただきました。リハビリも苦しいと思うことがないくらい、毎日楽しくできました。

ありがたい限りです。



▲スタッフと一緒に記念撮影  
前方左から2番目



## 嚥下だより

2021年6月28日  
愛知県済生会リハビリテーション病院  
摂食嚥下支援チーム  
第5号



抵抗力や体力が落ちている人にとって、口腔内の細菌は大敵です。

口腔内の細菌が誤嚥性肺炎の原因となるため、口腔内の清潔を保つことが大切です。

- ・歯は必ず歯ブラシで磨きましょう。口をよくすすぎ、やわらかいブラシなどで歯肉や舌、上あごをブラッシングすると汚れが取れます。マッサージ効果もあるので血行もよくなります。
- ・歯がまばらになっているときは、1本ずつていねいに磨きましょう。入れ歯の金具がかかる歯には汚れがつきやすいので、丁寧に磨いてください。
- ・入れ歯は歯磨きのたびに外して、しっかり口腔内と入れ歯をきれいにしましょう。入れ歯をずっとはめたままにしていると、歯肉に負担がかかって血行が抑制されがちになります。可能であれば寝るときには入れ歯をはずして、歯肉を休めるようにしましょう。

### <歯ブラシの保管方法>

口腔内の清潔を守る歯ブラシは、保管の方法を間違えると細菌が繁殖して非常に不潔な状態になります。

- ・歯磨き後、歯ブラシもきれいに洗い、しっかり乾燥させましょう
- ・風通しの良い場所でブラシの毛先を上にして、立てて保管しましょう
- ・たくさん歯ブラシを保管する時は、毛先が触れないようにする
- ・定期的に新しい歯ブラシに交換することもお忘れなく！



看護師：水越

# コロナ禍でのリモート結婚式 ～病院と式場をつなぐ～

今年の2月に脳梗塞を発症したUさんが急性期治療を終え、リハビリを目的に当院に転院して来られたのは3月のことでした。麻痺が重く寝たきりの状態が続いたために、筋力低下が著しくすぐに疲労を訴えていました。

入院して間もなく、Uさんが「娘が結婚式を5月に挙げる予定だったけれど、こんな体になっちゃって」と涙ながらに話してくれました。娘さんの結婚式へ出席する事を励みにして、その後もリハビリを懸命に頑張り続けましたが、身体機能の回復は乏しく5月になっても1日3回の食事を車椅子に座り食堂に来て食べるのがやっとの状態でした。

5月に入り、ご家族から「リモートで結婚式に参列できないか」と相談がありました。私達も大賛成で、結婚式場に協力を依頼し、「喜んで協力したい」との返事をいただきました。この時のUさんは15分間座っていることがやっとの状態でしたので、リモートで結婚式に参列できる体力があるのか心配しました。しかし、Uさん本人が強く希望されました。一度は諦めた結婚式でしたが、リモートで参列することでUさんのモチベーションが再び高まりました。麻痺のために思い通りにならない身体に悲観的になりやすいUさんでしたが、「頑張らないと」と自分に言い聞かせていつも以上にリハビリを頑張っていました。

結婚式当日は、ヘアマニキュアで髪の毛を黒く染め、礼服に着替え、娘さんが選んでくださったメイク道具でお化粧をしました。病院の面談室と結婚式場がリモートで繋がり、娘さんがお父さんとバージンロードを歩く姿に終始涙があふれていきました。結婚式翌日には、病床のUさんに感謝と励ましのメッセージが綴られた手紙が花嫁さんから届きました。その手紙を支えにその後もリハビリを続け、入院から145日後の8月上旬にご自宅へ退院されました。

看護師 堀口 まりな



## 脳卒中認定理学療法士を取得しました



認定理学療法士制度は、日本理学療法士協会が設けている専門技術を認定する制度です。高い専門性を高めることで技術やスキルの維持や向上だけでなく、社会や組織の中での理学療法士の専門性を高めていくことを目的としています。

私は当院でも入院患者割合が一番多く、リハビリ担当する機会の多い脳卒中分野に興味を持ちました。日々患者さんと向き合い共に治療していく中で、成功体験や失敗体験など様々な経験をします。しかし患者さんは誰しも「元のように戻りたい」・「少しでも良くなりたい」と考えています。入院当初は自分の力で座ることさえできなかつた患者さんが長期のリハビリ期間を乗り越えて、自らの力で歩行できるようになる姿を見て感銘を受けます。私は少しでもより良いサポートをするために、自己研鑽の大切さを学び脳卒中領域の認定理学療法士を取得しました。

また習得する際には様々な研修会に参加し、そこで得た知識は臨床に直結することが多く、日々のリハビリ内容の立案に大変参考になり、提供できるリハビリの「質」が向上したと思います。

当院には下肢装具や電気刺激療法、体重免荷装置などの歩行練習をサポートする機器が揃っています。それに加えて学んだ知識や技術を最大限に活かして患者さん達が掲げた目標を一つでも多く達成できるように、誠心誠意サポートしたいと思います。

脳卒中認定理学療法士 平良 海樹

## 退院に向けた意思決定支援について



私は2019年1月に回復期リハビリテーション認定看護師の資格を取得しました。

回復期リハビリテーション認定看護師の活動として院内や看護学校で講義を行ったりしています。また今年度から院内で発行される「リハのお悩み相談室」の作成に携わらせていただいている。今回は退院に向けた意思決定支援について話したいと思います。

例えば、患者さんやご家族が自宅退院を希望されている場合であっても、重度の認知症や寝つきり状態、医療処置など多くの援助を必要とする場合、支えるご家族の負担や介護力など総合的な判断から退院先に施設を勧めるケースもあるかと思います。

特に老老介護、認認介護といった場合には「生活が破綻してしまうのではないか」という懸念から自宅退院は難しいのではないかという判断になることもあります。しかし、最終的な決定をするのは患者さんやご家族であり、われわれ医療者ではありません。

患者さんやご家族により良い判断をして頂けるように専門的な知識・経験を活かしアドバイスしていくことがわれわれの役割であり、回復期リハビリテーション病院の目指すべき役割なのではないかと考えます。

看護師 内藤 洋

## こんにちは、園芸部です。

今年の夏はひまわりにチャレンジしてみました。園芸部のスタッフの身長を超えてとても立派に育ってくれました。今年の種を取って来年には知多半島にあるようなひまわり畑を目指そうと思います。グリーンカーテンは新芽が出るころにすくめに食べられてしまい、きゅうりは全滅でしたが、朝顔はなんとか伸びて、グリーンカーテンになりました。花壇の一部の畑に春に植えた枝豆とじゃがいもの収穫も行いました。じゃがいもは葉っぱが病気になってしまい、早めの収穫になってしまったためとても小さなお芋でした。枝豆は食育の一環として園芸部員の子どもが収穫を行いましたが、豆がなっているところや土から生えている様子を興味深くながめて、初めて抜くときはこわごわ抜いていましたが、2回目に抜くときは楽しそうに抜いていました。収穫した枝豆はすぐにゆでてもらったようで、また食べたいとかわいい笑顔で感想を教えてくれました。

今後は寒さに強い花に植え替える予定です。お楽しみに！

園芸部一同



## 整形外科 伊藤岳史先生 退任

9月29日(水)をもって、整形外科の伊藤岳史先生が退任されました。伊藤先生は整形外科医として、約10年間当院の整形患者さんに寄り添い、専門的な治療をしてくださいました。

長年お力添えをいただき、ありがとうございました。



# 院内周辺を綺麗に

当院では以前より地域清掃の一環として施設職員により病院周辺の歩道、及び付近の公園の清掃を週2回ほど行ってあります。

過去に排水口に溜まった落ち葉などから煙が出て地元自治会の注意喚起が来たために始まりました。またお昼休憩に公園など使用している職員には、各自でゴミの持ち帰りや携帯灰皿の所持などお願いしています。

年間を通して吸い殻やあ菓子のゴミはありますが、時期によって出てくる物も傾向があり、例えば夏休みは花火やアイスの包装などが多く、お祭りの翌日はごみ袋一つでは足りないくらいになることもあります。

綺麗になっている道路や公園は普段気にも留めないものです。汚れていても気にならない人もいると思います。しかし、近くに保育園もあり、ごみが散乱しているところを見せるのも教育上よくないと思いますし、何より火災の起きる危険もあります。

片付いていない所にはいろいろなものが寄ってきます。

「その行動、子供達に見せられますか。」ですよ。

今後も地域の人達に喜んでもらえるよう地域清掃を続けていきたいと思います。

施設係 安藤 芳和



清掃活動の様子

## 新人紹介

医師(リハビリテーション科第三部長)

いよだ  
伊代田 一人



整形外科医として勤務してきました。早く職場に慣れて、患者さんの回復を支援できるように努めます。宜しくお願い致します。

●趣味：読書、旅行、ウォーキング

通所リハビリ助手

つちだ  
土田 真紀



皆様の元で働くことを大変光栄に思います。襟を正し、感謝の気持ちを忘れずに仕事に励む所存です。至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご指導のほど宜しくお願ひ致します。

●趣味：登山、映画鑑賞

介護福祉士

わたなべ  
渡邊 友子



新しい環境に少しでも早く慣れ、患者さんが笑顔で過ごされるよう日々努力し頑張っていきます。

●趣味：旅行、ホテルスタイル

まだ分からぬ事ばかりですが、1日でも早く仕事を覚えて、一生懸命頑張ります。宜しくお願ひ致します。

●趣味：ドラマ、映画鑑賞

発行／社会福祉法人 恩賜団 愛知県済生会リハビリテーション病院 広報委員会

〒451-0052 名古屋市西区栄生一丁目1-18 TEL 052-571-5251 FAX 052-551-0057

ホームページ <http://www.aichi.saiseikai.or.jp/>